1.「起業教育の意義と可能性」

大阪商業大学　学長　谷岡一郎

「起業」とは、文字通り新しい業（産業／企業）を起こす行為をさします。戦後日本社会が世界に追いつき、追い越すプロセスにおきまして、日本人特有の創意工夫を加えた新産業、新企業が多く誕生し、そして、切磋琢磨してきたことなくしては、現在の日本社会を語ることはできないでしょう。今後も日本が、多くの産業において世界の先進国であり続けるため、起業、そしてそのための教育の必要性はどれほど強調しても充分とは言えないのです。

起業教育の２つの側面

起業のための教育は、大きく２つの側面に分けられます。ひとつめは、実際の企業に向けたノウハウやテクニックです。すなわち、基本アイデアに従って組織の目的を決めたあと、年間の計画、総予算、人数などすべてを決めます。加えて法律や会計、そして社会システムを理解しなくては、新しい活動は始まりません。当面、軌道に乗るまでの資金の確保も避けて通れないでしょう。こうした知識は一朝一夕に身に付くものではありません。的確かつ効率的な教育が必要とされるゆえんです。

もっと大切なことがあります。これが起業教育の持つもうひとつの側面ですが、それは起業をしようとする「スピリット（精神）」です。この側面に関しては、実は決まり決まったプログラムの中で教えられるとは限りません。個人差があるからです。

かつてドイツの社会科学者マックス・ウェーバーは、資本主義という社会システムは、小手先でいくかの施策を実行すればよいというわ

けではなく、大衆の間に資本主義を尊重・実施する精神が必要不可欠であると説きました（M. ウェーバー『プロテスタントの倫理と資本主義の精神』より）。ある事業に投資し、懸命に勤勉に働き、資本を増大させることは神の意志にかなう善であるという信念。つまり結果としての金儲けは、世の中に人々が欲するモノを提供した証拠なのだという倫理観こそが、本当の意味での資本主義を生みだしたのだと考えたのです。それと同様、起業をするにあたって、単にそのための知識（ノウハウやテクニック）があれば充分なのだとする考えは、すでに重要な間違いを犯しているのです。

起業家が持つべきスピリットとは、新しいアイデアを世に広め、世の中の役に立つんだという強い信念だと考えます。ここにおいても、マックス・ウェーバーが考えた資本主義の精神と同じく、単なる拝金主義を動機とする起業であってはなりません。世の中を少しでも便利に、そして住みやすい社会に変えるんだという気持ちが根底にあってほしいのです。